DES117-3 訂正表

第 117-3 回歯科国試全国統一模擬試験の問題及び解説に不備がございました。下記のように訂正下さいますようお願い申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

B 問題 14　解説書 123 ページ　　23 年 12 月 21 日訂正追加

ポイント

誤　・第Ⅻ因子

↓

正　・第Ⅹ因子

解説の記載に誤りがあったため訂正いたします。なお、採点に変更はございません。

B 問題 22　解説書巻頭出題内容一覧及び解答、131 ページ　　23 年 12 月 21 日訂正追加

選択肢 d「水素イオン濃度」を正解として出題しましたが、水素イオン濃度の上昇は pH を低下させ、ヘモグロビンの酸素親和性は低下します。

問題の設定に不備があり正解なしとなってしまうため、不適切問題とし全員正解として採点いたします。

DES117-3 訂正表

B 問題 79、80　解説書巻頭出題内容一覧及び解答、別冊写真集 B 31 ページ №27B　23 年 12 月 21 日訂正追加

問題文

誤　～右側舌縁に 14×12mm 大の病変を認め～

↓

正　～左側舌縁に 14×12mm 大の病変を認め～

選択肢考察 80

誤　○ｂ、○ｃ　T1N0M0 の舌癌では、～

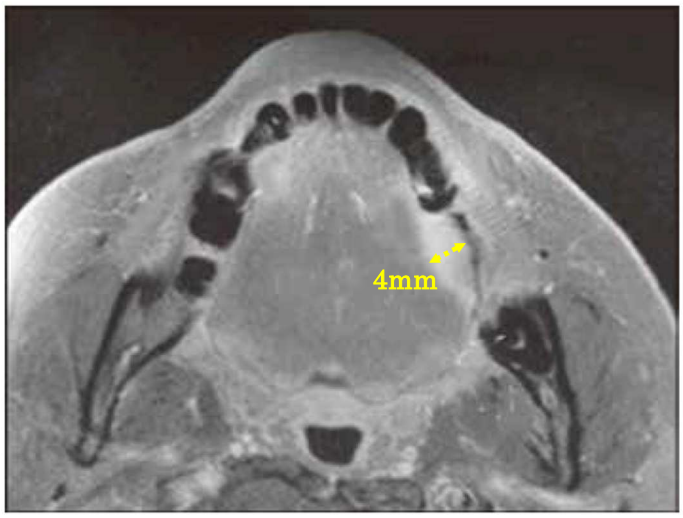
↓

正　○ｂ、○ｃ　T1N0M0、T2N0M0 の舌癌では、～

別冊写真集

深達度を示す「4mm」が記されていませんでした。

B



本問は別冊№27B の MRI に、深達度を示す「4mm」の記載が抜け落ちていたため、深達度を計測することができず TNM 分類及び Stage 分類ができません。

したがって、B 問題 79、80 は不適切問題とし全員正解として採点いたします。

しかしながら、MRI に「4mm」の記載があった場合、本問は非常に重要な出題となると考えられます。

歯科国試では、舌癌の深達度の計測は超音波を用いたものがすでに出題されていますが（113B-85、114B-81）、MRI を用いたものが出題されていません。しかし、**舌癌の深達度計測に最も有用なのは生検前の MRI である**ことが示されていることから、今後の歯科国試で MRI による舌癌深達度の計測に関する出題は強く予想されます。本問を参考に、舌癌の MRI を用いた深達度の計測及び TNM 分類について確認していただければと思います。

DES117-3 訂正表

C 問題 21　解説書巻頭出題内容一覧及び解答、237 ページ

パラソルモンを持続的に投与すると骨吸収が促進して骨が脆くなりますが、間歇的に投与すると骨形成時に働く骨芽細胞の分化を促したり、骨芽細胞の細胞死を防いだりすることにより、新しい骨の形成が促進されます。選択肢 b「パラソルモン製剤」は骨粗鬆症の治療薬として用いられており、それはポイントに記載のある「テリパラチド」のことで、選択肢 b は正解肢となりえます。

また、理論的には選択肢 c「カテプシン K 阻害薬」は骨粗鬆症の治療薬として用いることができますが、カテプシン K 阻害薬である「オダナカチブ」は脳卒中のリスク上昇が確認されたため開発中止となっています。

問題の設定に不備があったため、不適切問題とし全員正解として採点いたします。

D 問題 85　解説書巻頭出題内容一覧及び解答、422 ページ　　23 年 12 月 21 日訂正追加

画像からは上顎骨の一部である眼窩底の骨折が明らかではありますが、「眼窩に陥没している骨片はどれか。」という問い方だったため、蝶形骨など他の骨を疑わせる表現となっておりました。「眼窩から陥没している骨片はどれか。」と問うのが適切でした。

問題の問い方に不備があったため、不適切問題とし全員正解として採点いたします。

エムスリーエデュケーション株式会社　歯科事業本部
DES 歯学教育スクール